【第 1 号議案】
2024/2025 年度(2024.7～2025.6)活動総括及び 2025/2026 年度(2025.7～2026.6)活動方針

１．2024/2025 年度総括
(1) 研究交流活動
前年度（2023/2024 年度）は 3 企画の実施であったが、今年度（2024/2025 年度）は以下の通り 5 企画の実施をした。

- 2024 年 07 月 28 日（日)大図研京都ワンディセミナー「読書バリアフリーに関する国立国会図書館の近年の取組と大学図書館との関係」参加 16 名
- 2024 年 09 月 28 日（土)大図研京都ワンディセミナー『貸本屋と新聞縦覧所と図書館と―近世近代読書装置への史眼（廣庭基介セレクション)』のお話　参加 11 名
- 2024 年 10 月 26 日（土)大図研京都ワンディセミナー「京都橘大学図書館見学と交流会」参加 11 名
- 2025 年 01 月 26 日（日)大図研京都ワンディセミナー「円安対策！「2 つの欧文文献提供システムを同時導入」導入の経過と成果について」　参加 30 名
- 2025 年 02 月 24 日（月)大図研京都ワンディセミナー「立命館大学学生による卒業論文発表会」　参加 16 名

特に 2 月の学生の卒業論文の発表は、今後の組織強化にもつながる取組であったと高く評価しているので、今後も担当教員との連携を維持・強化して定例化に努めたいと思っています。なお、交流企画が実施できなかったので、次年度にぜひ実施できるようにしたいと思っています。

(2) グループ報
2024/2025 年度刊行分につきましては、グループ報刊行に係る負担軽減のため、刊行頻度を年間 2 号に変更いたしました。また即時 OA 義務化対応としてエンバーゴの廃止を行いました。その上で、計画的発行を目指し編集作業を行いました。
2024/2025 年度発行したグループ報の目次は、次のとおりです。
1) グループ報 No.361

- 大学図書館研究会京都地域グループ報　刊行頻度変更と即時 OA 対応について
- 大学図書館研究会京都地域グループ第 47 回京都地域グループ総会議案
    - 第 1 号議案
    - 第 2 号議案
    - 第 3 号議案
    - 議事メモ・補足事項
- グループ運営委員あいさつ
- 会費ご納入のお願い

2）グループ報 No.362
・ 京都地域グループ委員の募集について
・ 大図研京都ワンディセミナー参加報告
  ・ 「『貸本屋と新聞縦覧所と図書館と-近世近代読書装置への史眼（廣庭基介セレクション)』の お話」参加報告 （永田千晃）
  ・ 「京都橘大学図書館見学と交流会」参加報告 ： ～危機感を原動力とした発展～ （加川みどり）
  ・ 「円安対策！「2 つの欧文文献提供システムを同時導入」導入の経過と成果について」参加報告（山田奈々）
  ・ 「立命館大学学生による卒業論文発表会」参加報告 ： 貴重な「学び」と「つながり」を得た卒論発表会 （久野和子）
・ 会費ご納入のお願い

(3) Web サイト、メールマガジン

Web サイトに、イベント案内、グループ報、グループ運営委員会報告、地域グループ総会報告等、グループ活動の記録を掲載しました。グループ報についてはエンバーゴの廃止に伴いパスワードの設定を廃止しました。

また、メールマガジンは、「大図研京都地域グループ News Letter」として、 no.325 (2024 年 7 月 3 日）から no.336（2025 年 6 月 30 日）を発行しました。グループ活動をお知らせするものとして、グループ委員会議事録、グループ企画案内を紹介する記事を配信しています。また、図書館関係のイベント案内を不定期で配信いたしました。

(4) 組織活動

2024/2025 年度は、地域グループ会員 51 名の皆さんに支えられながら活動してきました。今年度は 1 名の退会があった一方で、6 名の新規入会がありました。多くの方に入会していただけたのは、継続して研究交流企画を行ってきた成果だと感じています。

(5) 財務

活発な研究交流を目指して、今年度も研究交流会費に重点的に予算を配分しました。5 回の研究交流企画を実施し、そのうち複数回は会員の所属機関などのご協力により会場費が無料となりました。また、講師も会員であったり、無償で行っていただけたことから全体として費用を抑えることができました。

その結果、予算の範囲内で効率よく、かつ質の高い企画を継続することができました。あわせて、これまで試行的に運用していた「学生会員制度」についても、運用状況をふまえて内容の見直しを行い、今後の規約改定を検討しました。

２．2025/2026 年度方針

(1) 研究交流活動

１）計画中の企画

・ 9 月に実施予定の全国大会において、京都地域グループとしてシンポジウムの企画その他に取り組んでいます。

・ また、昨年度実施した、卒業論文シリーズを何とか今年度も実施できないか模索中です。

２）会員の発表の場としての研究交流企画に積極的に取り組みます。

・ 会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。

勉強会的な企画だけでなく、交流を軸とした企画も検討し、年 2 回程度は開催できるようにします。

(2) グループ報

購読会員を廃止し、即時 OA 対応を引き続き進めます。また、計画的に年 2 回発行を行い、総会記録および委員・新入会員あいさつ、セミナー等イベントの内容を会員の皆様にお伝えできる紙面の作成を目指します。

(3) Web サイト、メールマガジン

京都地域グループが主催・共催する各種活動の情報やグループ報の記事を、Web サイトを通じて随時発信しています。その他のコンテンツの充実についても努めてまいります。

また、メールマガジンについて、会員に役立つ内容をお伝えするとともに配信のタイミングについて継続して検討していきます。

(4) 組織活動

2025/2026 年度は、会員 50 名でのスタートとなります。今年度は、京都地域グループが全国大会の運営に大きく関わる予定です。この機会を活かして、新たな会員の獲得や地域グループの活動の認知向上につなげていきたいと考えています。

(5) 財務

今年度も、活発な研究交流を目的に、研究交流会費に重点を置いた予算編成を行っています。過去の繰越金も活用しながら、柔軟かつ計画的に執行していく予定です。